

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 病院群輪番制病院設備整備費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111(内3238)

E-mail : c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 14,667 千円 (前年度予算額) 14,667 千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	14,667	7,333	0	0	0	0	0	0	7,334
要求額	14,667	7,333	0	0	0	0	0	0	7,334
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・二次救急医療体制として、県内7地区で病院群輪番制（休日又は夜間の入院治療を必要とする救急患者の医療を確保するため、比較的大規模な病院が医療圏、もしくは広域市町村圏内において、当番日を定め、病床・医療従事者確保を行う）が実施されている。
- ・二次救急医療体制の機能強化の為、病院群輪番制参加病院の施設・設備の充実が求められている。

(2) 事業内容

- ・病院群輪番制を実施している市町村が行う病院群輪番制病院への設備整備補助に対し補助を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・国庫補助金（医療提供体制推進事業費補助金）の活用
※補助率2／3（国1／3、県1／3）

(4) 類似事業の有無

- ・類似事業なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	14,667	市町村が行う病院群輪番制病院への設備整備補助に対し補助する。
合計	14,667	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県保健医療計画（第8期）
第3部－第2章－第6節 救急医療対策

(2) 国・他県の状況

- ・厚生労働省は、医療提供体制推進事業費補助金に個別メニュー（病院群輪番制病院設備整備事業）を設け、病院群輪番制病院の設備充実化を推進している。

(3) 後年度の財政負担

- ・地域の二次救急医療体制の確保において、病院群輪番制は重要な役割を担っており、今後も病院群輪番制参加病院への支援は必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・保健医療計画上、病院群輪番制を含めた二次救急医療体制整備への支援を明記しており、県が事業主体であることは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

病院群輪番制参加病院に必要な医療機器の新規導入、更新にかかる経費を補助することで、適正な救急医療体制を確保する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

本事業は、病院群輪番制参加医療機関が必要とする医療機器を整備するものであるため、指標を設定することはできない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 4 年 度	取組内容： 病院群輪番制病院設備整備費補助金（R3年度からの繰越） 実績1件（美濃加茂市（桃井病院、超音波画像診断装置等）） 病院群輪番制病院設備整備費補助金 実績1件（美濃加茂市（太田病院、デジタルオグラフィックシステム等））
	成果： 医療機器の更新に係る経費を補助することで、適正な救急医療体制を確保できた。
令和 5 年 度	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
	取組内容： 病院群輪番制病院設備整備費補助金 実績1件（可児市（東可児病院、超音波画像診断装置、診断用X線装置））
	成果： 医療機器の更新に係る経費を補助することで、適正な救急医療体制を確保できた。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

令和 6 年 度	取組内容： 病院群輪番制病院設備整備費補助金 実績1件（可児市（可児とうのう病院、セントラルモニター、解析付心電計、除細動器、超音波診断装置））
	成果： 医療機器の更新に係る経費を補助することで、適正な救急医療体制を確保できた。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	救急患者数は毎年増加傾向にあり、設備整備の補助が救急医療体制の確保につながるため必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	病院受入照会回数4回以上の割合は低下しており、事業の効果が表れている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	事業実施主体において競争入札により経費を節減しており、効率化が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 救急搬送に要する平均時間は増加傾向にあるため、迅速かつ適切な医療機関への搬送の確保対策が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 第二次救急医療機関の診療機能として必要な設備整備に補助を行うことで、救急医療体制の整備拡充を図り、県民サービスの向上を図ることが出来る。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	